

なぜ今、世界の森林減少防止に 取り組まなければならないのか？

(公財) 地球環境戦略研究機関
生物多様性と森林領域
山ノ下 麻木乃

森林宣言アセスメントパートナーズの 森林宣言評価 (Forest Declaration Assessment)

森林宣言アセスメントパートナーズ：

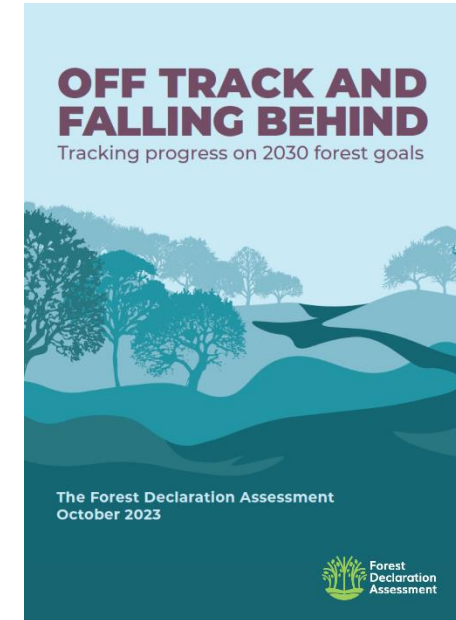
世界各地の研究機関、シンクタンク、NGOなどで構成され、2015年から毎年、「森林宣言評価」を公表。「森林・土地利用に関するグラスゴー・リーダーズ宣言」や「森林に関するニューヨーク宣言(2014)」、「ボンチャレンジ(2011)」などの森林に関する世界的なコミットメントの包括的な追跡と評価を、独立した立場で行っている。IGESは2019年から参加。

森林・土地利用に関するグラスゴー・リーダーズ宣言：

UNFCCC COP26 (2021年) で、140以上の政府が、「**2030年までに森林減少と土地劣化を食い止め、回復させること**」を誓約。進捗状況のモニタリング、報告機能がない。

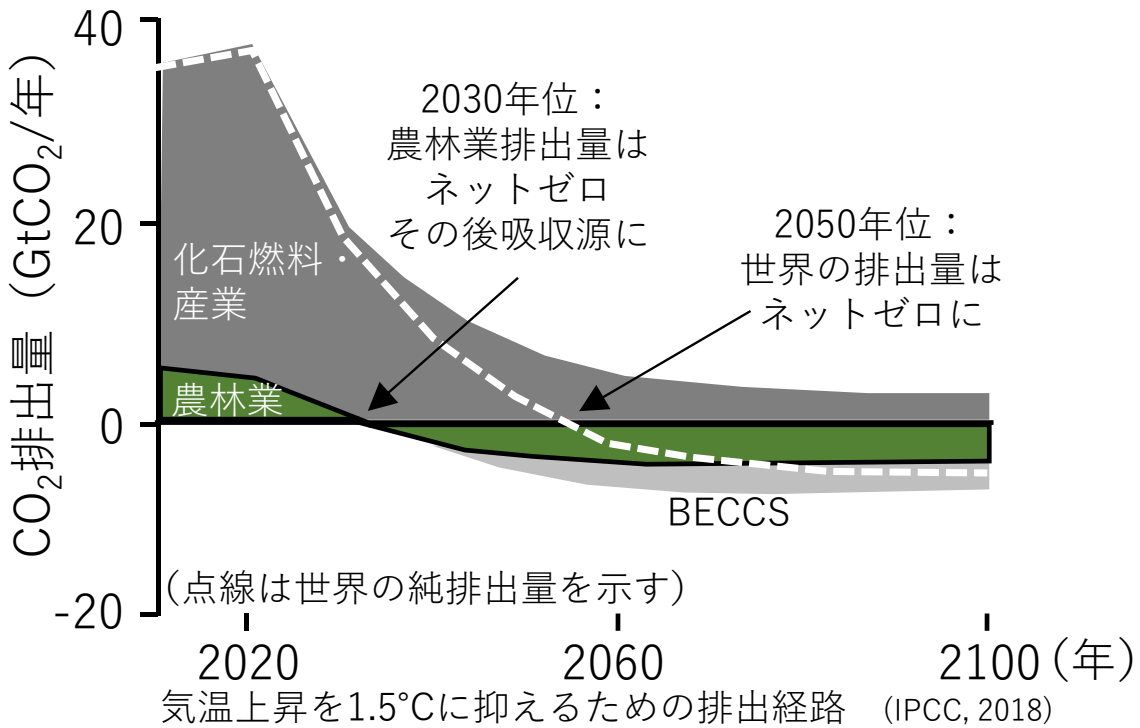
つまり、森林の世界目標は、**少なくとも**

「2030年までに森林減少ゼロ」



なぜ、2030年までに森林減少ゼロ（森林の世界目標）をめざすのか？

大量のCO2排出
100tCO2/ha



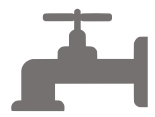
森林減少



森林セクターのネットゼロは、排出と吸収のバランス
森林回復（植林）も重要。しかし、森林減少を止めなければ、森林
を吸収源として機能させることは難しい



植林



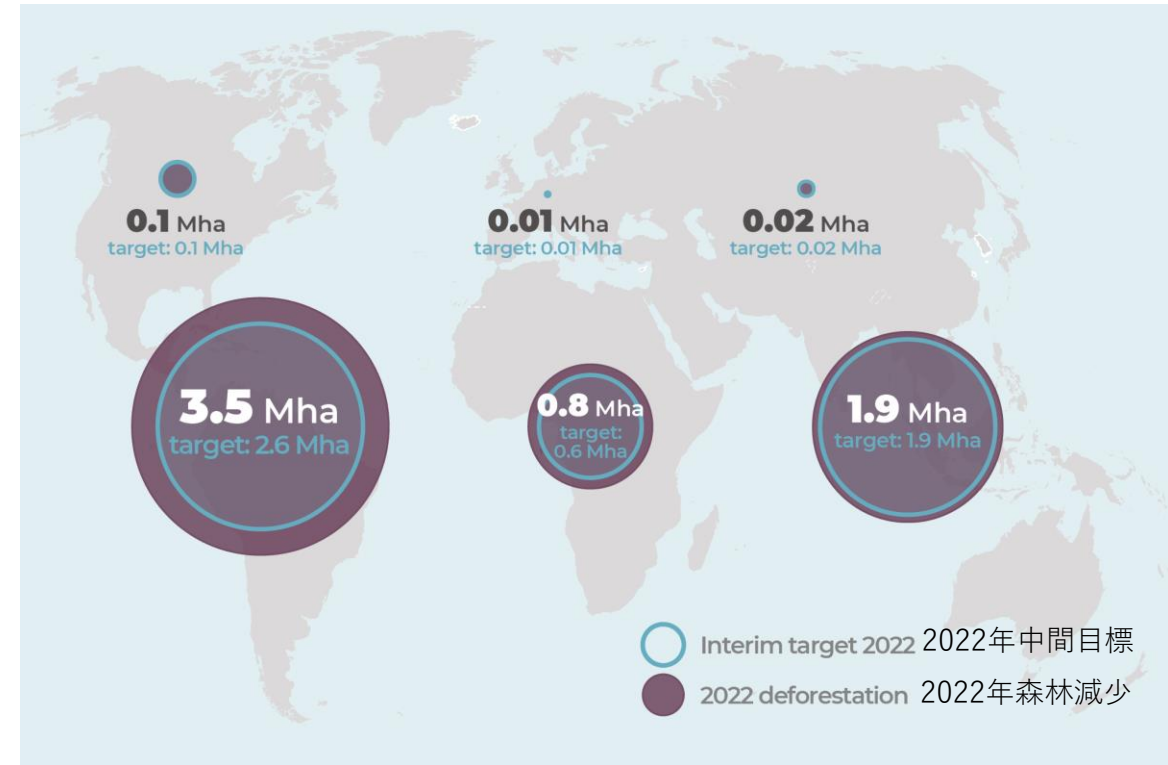
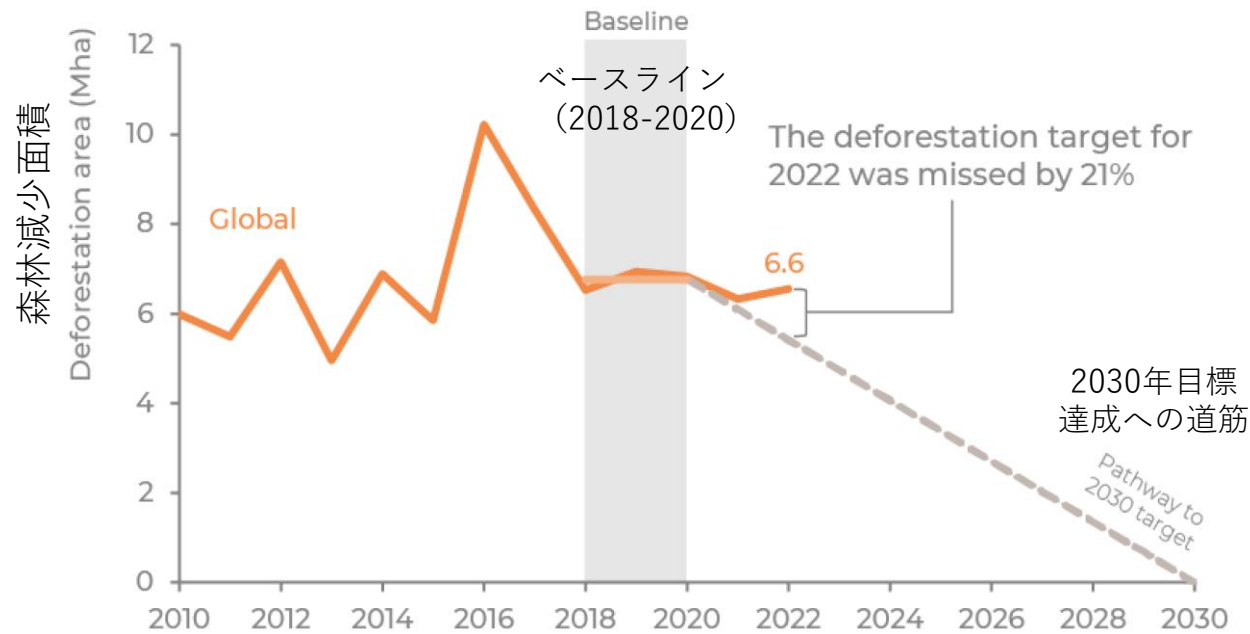
植林による吸収



森林減少
による排出

- 1.5°C目標達成には、農林業（森林）分野で**2030年にネットゼロの達成**が不可欠。
 - どのセクターよりも早い
- 進行中の森林減少を放置しては（植林するだけでは）、ネットゼロの達成は無理
 - 穴が大きすぎる！

世界は2030年に森林減少ゼロ達成への道筋には乗れていない (Off the track and fall behind)

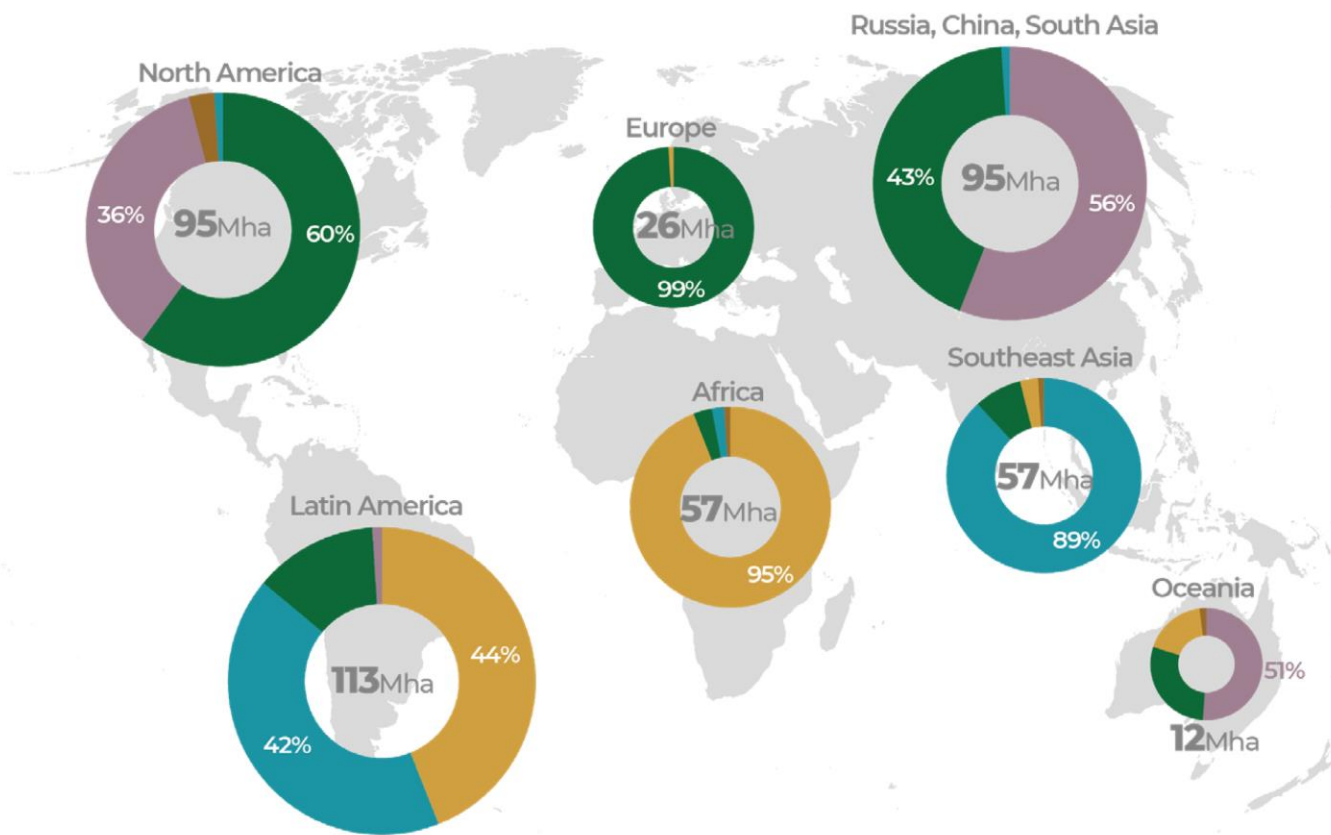


Forest Declaration Assessment Partners (2023)

- 2022年に、660万haの森林が失われ、目標必要へ道筋から21%上回った
 - 96%の森林減少は熱帯で（生物多様性ロス）
 - 熱帯原生林の消失は410万ha
 - 北アメリカやヨーロッパの北方林や温帯林でも
- 熱帯アジアは唯一、目標達成への軌道に乗っている（インドネシアとマレーシアは森林減少の継続的削減を達成）

農業コモディティ生産が熱帯林減少の主要な原因—日本と世界の森林減少問題の接点

2001-2022年の樹木被覆減少の要因



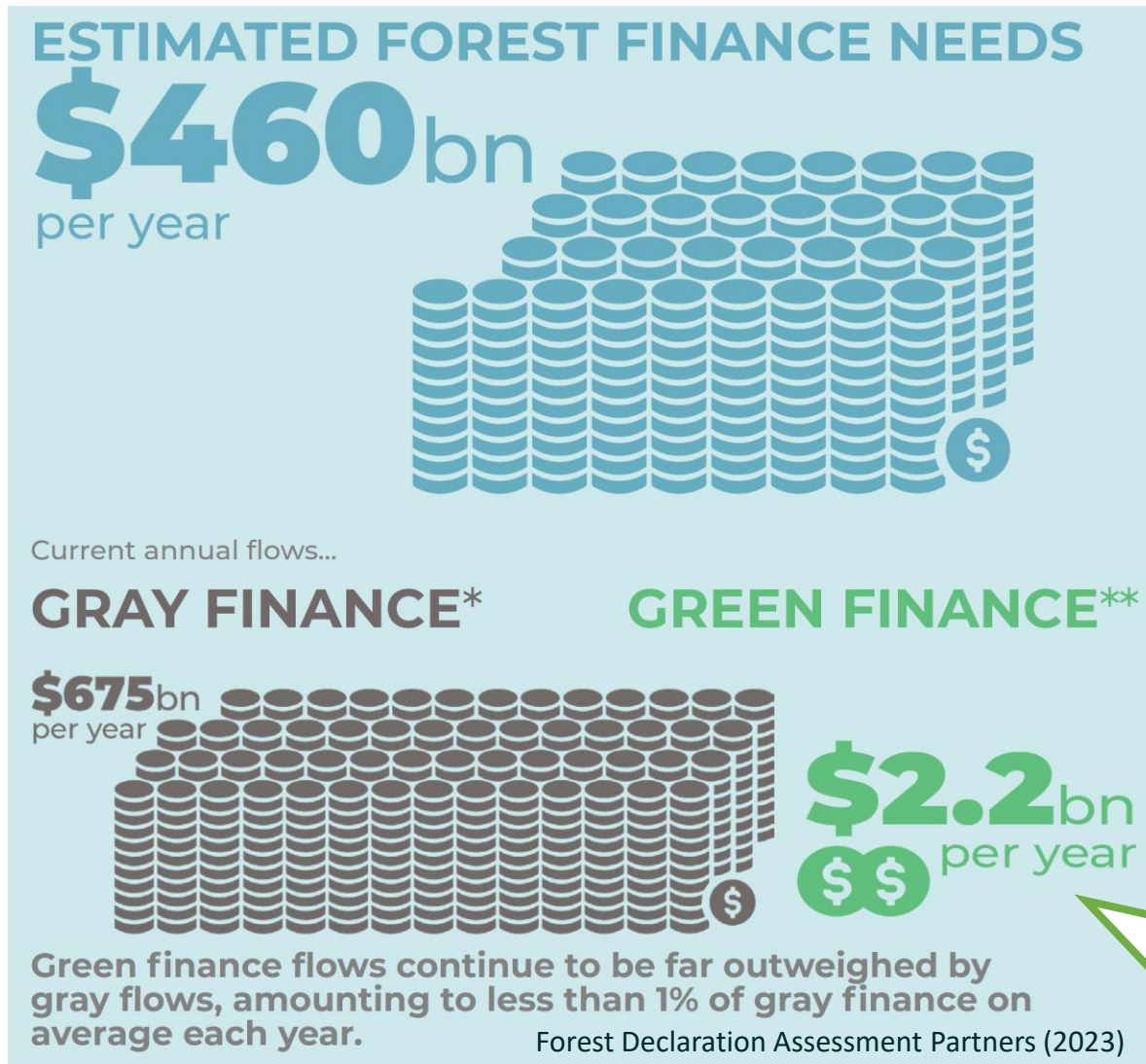
- 樹木被覆減少の原因は地域によって異なる
 - コモディティ生産：東南アジア、ラテンアメリカ
 - 移動耕作：アフリカ、ラテンアメリカ
 - 森林火災：ロシア・中国・南アジア、オセアニア、北アメリカ
- 熱帯林を破壊した農地で生産された農作物の3-4割は商品作物として先進国で消費 (Curtis et al. 2018)



消費側の責任 (shared responsibility)

- EUでは森林を破壊した農地で生産された農林産物の輸入禁止、事業者にデュー・デリジェンスを要求
- 企業に求められる、サプライチェーン排出のアカウントティング、情報開示と削減
 - 米国で森林減少の気候リスクを考慮した輸入牛肉の小売価格は700%上昇する可能性あり (Orbitas, 2024)

森林減少ゼロ達成に必要な森林資金は全く足りていない



- 森林目標達成に必要な資金は2030年までに年間4600億ドルが必要、グリーン資金は年間22億ドルのみ（グレー資金の1%以下、国際的なサッカースタジアム建設費2個分）
 - グリーン資金：森林保全、回復、持続可能な利用等を目的とする国内・国際、公的・民間資金
 - グレー資金：森林にマイナスの影響を与える可能性のある資金（森林にプラスの影響を与える目的がない農業に対する政府補助金等）

12年間に拠出されたREDD+公的資金は265億ドル（2010-2022）

6.9bn
Public international REDD+ finance
国際的な公的資金

10.1bn
Public domestic REDD+ finance
国内の公的資金

9.5bn
Public international climate-related mitigation finance for forests

国際的な気候変動緩和関連の森林向け公的資金

まとめ

- 1.5°C目標達成のためには、2030年森林減少ゼロを達成する必要がある
- 現状、世界の森林減少は続いており、目標達成の道筋に乗っていない
- 森林減少ゼロ達成のための資金は全く足りていない
- **世界の森林減少は、「遠く離れた国の日本とは関係のない話」ではなく、日本企業も対応急務**
- **森林カーボンクレジット（REDD+）は森林減少ゼロのための重要な民間資金供給ツール**

REDD+が機能するためには、

- **質の高い信頼できるクレジット創出に加え、民間企業によるクレジット活用方法を議論する必要がある**
 - **世界の森林減少ゼロに対して、日本の民間企業は何をすべきなのか？どのように貢献するのか？**

